

9/4 『怒りから赦しへ』(エペソ4:25~32)

長谷川 望牧師

*救われてクリスチャンになることは、古い人を脱ぎ捨てて新しい人を着ること。

必ず何かが変わる。どのように変わるかが32節までに主として4つのことが挙げられている。1. 隣人に対して偽りを捨て、真実を語れ。2. 人の物を盗まないで骨を折って働き、かえって人に施すことを考えよ。3. 悪い言葉を出すな。人の徳を養い、人に恵みを与えることばを発せよ。そして、4. 怒りを捨てよ、である。

*「怒っても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで憤ったままでいてはいけません。悪魔に機会を与えないようにしなさい。」(エペソ4:26~27) 聖書では「怒り」は神の怒り、さばきとして使われていることが多い。人間の「怒り」とどのようなものか。先ず、「怒り」は他の感情と同じように神が人間に与えられた感情の一つである。「感情には機能がある。それは私たちに何かを知らせる役割を持っている——怒りの感情は、私たちを傷つけたり支配したりする危険が近づいていることを知らせる信号の役目をする。」(ヘンリークラウド他著「境界線」より)。エペソ4:31では怒ってはいけない、憤りを捨てなさいと勧めているので、人に対しても神に対しても怒りは良くないことは確かである。しかし、その感情はどうしても出てくるし、信号として受けとめ、怒ったとき、立ち止まって考えるようにすればよい。どうして怒りが出てきたか、相手の人はどういう気持ちで私を怒らせるような言葉や態度を取ったかなどに思いを至らせるといつまでも怒っていなくて済む。いつまでも怒っていると憎しみに変わり、罪を犯してしまう。神様ご自身が「怒るのに遅く、いつまでも怒っておられない」(詩編103:8参照)方である。

*8月にNHKスペシャルで放送された「二人の贖罪」～日本とアメリカ 憎しみを超えて～。戦争により二人は(真珠湾攻撃総指揮官淵田三津雄とアメリカ航空隊爆撃手ディシエイザー)それぞれが敵国に対して憎しみの極致にあった。しかし、二人とも「そのとき、イエスはこう言われた。『父よ、彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。』(ルカ23:34)」という同じみことばに大きく心を動かされ、キリスト信仰を持った。さらに、

二人とも伝道者になり、かつての敵国に渡り、どのようにして憎しみを赦しに変えることができたのかを、聖書より説き続けた。

* 「お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。」
(エペソ4：32)

私たちは怒りや憎しみを抱くような罪びとであるけれども、イエス・キリストが救主であることを信じる者は、その十字架のゆえにすでに赦されている。先に赦されているからこそ、人を赦することができるのである。